



(公社) 兵庫県建築士会 姫路支部

## 支部だより

5月号

姫路支部会員のお仕事拝見

ef (エフ) 建築設計事務所

藤原 哲也

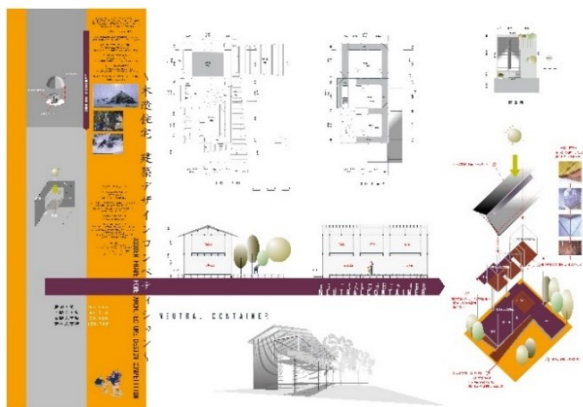
今月は、姫路支部の発展を支えていただいた前専務理事の藤原哲也さんに寄稿いただきました。

子どもの頃から模型など立体化することが好きで、漠然と将来は「もの作り」に関わりたいと考えていた中で、建築設計と出会いこの道に進みました。

姫路市内の設計事務所に15年程勤務した後、1994年に独立し、おかげさまで今年30年目を迎えます。今では当たり前となったCADを使った設計も、その当時はまだ新しいツールだったので、思い切って手持ちの製図機を処分しPCとCADソフトを購入してのスタートでした。

開業の翌年(1995年)に阪神大震災を経験し、多くの建築物そして道路や橋などの構造物が被害を受け損壊した姿に大変ショックを受け、今後自分自身が自営していくことにも大きな不安を感じた事を記憶しています。

そのような中1999年、北海道に本社がある住宅メーカー主催の、アイデアコンペで「北極圏に暮らすチュクチ族の住まいをヒントに外皮空間を断熱層と利用して家族の気配を感じられる家」を提案し、大賞を受賞したことは、大きな自信となりました。



1999年土屋ホーム

「木造住宅建築コンペティション」大賞受賞

現在、主な業務は個人住宅や、社会福祉法人との繋がりから保育施設の設計が中心です。

住宅は個人の所有物ではありますが、昨今は「環境」が大きなキーワードになり、建築士会で毎年開催されている建築家講演会も「環境」をテーマとした講演が増えてきたと感じます。国の政策での「省エネ」だけに留まることなく、大きな視野で「環境にやさしい住宅」を捉えることができると考えています。



大塩の住宅(左)



千葉県の別荘住宅(右)

保育施設は0才～5才児、定員60名～160名程度の中規模な施設を主に設計しています。いずれも限られた設計期間の中であっても、先生方と子ども達の生活環境について慎重に議論を深めてつくり上げていきます。



2017年竣工 加古川市 第二はとのさと保育園

左の写真は2017年に竣工した定員90名の保育園で

- ①生活動作が適切に行えるスペースの確保
- ②園児のこころの安定が保てる空間の提案
- ③保育士どうしが協力できる間取りの配慮の3点を基本コンセプトに設計しています。

竣工の2年後に施主である法人理事長から「畑のまま残しておいた未造成地を園庭に整備したいので手伝ってほしい」とお話をいただきました。理事長が描かれた1枚のスケッチをベースに園児が安全に楽しく自然と親しめるように畑と併せてビオトープも設け、動線に配慮しながら具体的な設計を進めていきました。



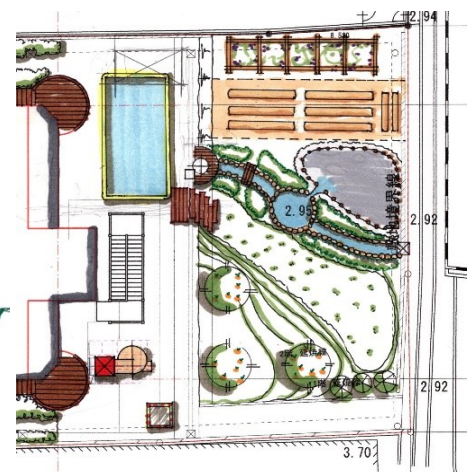
理事長からいただいたスケッチ



園舎と園庭全景



園舎から直接園庭に出られるすべり台は避難用を兼用しています。



提案した計画案



ビオトープ



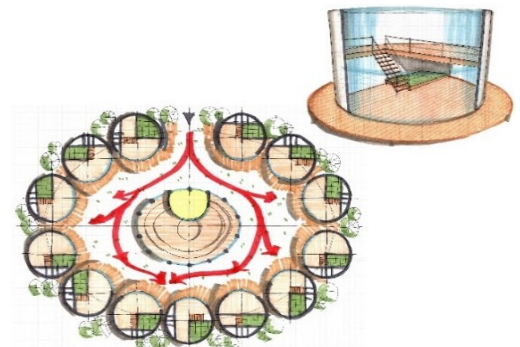
井戸であそぶ子供たち

水のある環境で子ども達が遊べる為に井戸を掘りました。運よく水脈に当たり、ビオトープと併せて今では子供たちの遊び場の一つになっています。

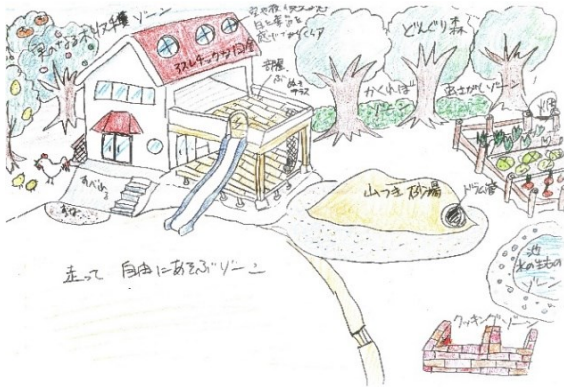


また、2021年には「子どもの発達と環境整備」と題して研究会を開催して「あそび」・「しょくじ」・「せいかつ」をテーマに、7つの保育園の先生方と1年間、月に1回のディスカッションを行い、最終の取りまとめは「理想の保育園」と題して各園の先生方に、スケッチで発表していただきました。

このことは建築の設計だけでなく、幅広い観点から勉強させていただくことができたとても良い機会となりました。



理想の園舎 study case3



理想の園舎 study case1



理想の園舎 study case2

子どもの頃にあこがれた「もの作り」の仕事ひとつひとつは、手間と時間のかかる作業の繰り返しですが、建築設計に従事して40年余り経った今、心からありがたく、これからも丁寧に建築に携わっていきたいと思います。

（了）

#### 4月の活動報告

- 4.17（水） 令和6年度 第1回理事会
- 4.25（木） 建築相談（姫路市役所）

#### 5月の活動予定

- 5.11（土） 令和5年度通常総会（姫路建設会館）
- 5.17（金） 建築模型作り講座（ものづくり体験館）
- 5.23（木） 建築相談（姫路市役所）
- 5.23（木） 構造学習会（オンライン）